

佐賀市文化振興基本計画策定委員会

会議録

開催日	令和元年12月12日(木)	
開催時間	16時00分から17時10分まで	
出席者	委員	高島会長、金子委員、西原委員、白木委員、桑原委員、宮崎委員、吉村委員
	事務局	東島教育長、百崎教育部長、横田文化振興課長、北島副課長、谷澤係長、角係長、橋本、川上、上瀧
議事	(1) 第三次計画の策定方針について (2) 計画策定スケジュールについて (3) 佐賀市の文化に関するアンケート調査について ・小学生、中学生 ・市民(18歳以上) ・文化連盟構成団体	
欠席委員	福島委員	
傍聴者	なし	
報道関係者	なし	

◎議事 第三次計画の策定方針及び計画策定スケジュールについて

○会長

事務局から、第三次計画の策定方針、計画策定スケジュールについて説明があった。ご意見やご質問等はないか。

○委員

第二次計画の進捗状況の説明はいつか。その説明を踏まえ第三次計画策定を検討しなければならない。

○事務局

第二次計画における事業の進捗状況については、4月頃に説明できるとしている。

○委員

障がい者による文化芸術活動を第三次計画の中に盛り込むというのは、具体的にどう盛り込むのか。

○事務局

障がい者による文化芸術活動の推進に関する法律が施行され、第三次計画へ盛り込む必要があるのではないかとすることで障がい者団体等に話を伺ったところ、障がい者スポーツは様々な取り組みがなされてきているのに対して、障がい者の文化芸術活動は主体的な取り組みがあまり多くないと感じた。こうした現状を配慮しながら、市としてできることは何かを考えていければと思っている。

○委員

第二次計画期間までに、障がい者の文化芸術活動への参加については検討課題に挙がってこなかったが、もっと早く検討しなければいけなかったと感じる。

○委員

例えば今、市民団体等がバリアフリー映画をつくろうとされているが、こうした取り組みは、取り掛

かりはバリアフリーであったかもしれないが、結果的には皆が楽しめるユニバーサルデザインのイメージである。しかし、盛り込もうとしているのは、障がいを持つ方に対して絵画等の発表の場を設けるといったイメージである。どのようなものを目指しているか伺いたい。

○事務局

今のところ具体的に目指しているものはない。佐賀市の現状等を委員の皆さんがどう感じるか等を踏まえながら、行政としてどういうことをやっていくかを議論の中で決めていきたい。

○委員

障がい者の文化芸術活動の推進となると障がい者福祉の話になりがちだが、あくまでも文化芸術活動の推進の一部として、行政は何ができるかを考えるべきである。

○事務局

委員が言うように、あくまでも文化芸術の計画なのでそれが主である。

○委員

健常者と障がい者で線を引くこと自体がおかしい。誰もが同じことが出来るようにバックアップが出来ないかということではないだろうか。

◎議事 佐賀市の文化に関するアンケート調査について

○会長

アンケートについてご質問等はないか。

○委員

今、佐賀県では伝承芸能祭等を復活したりして地域文化を大切に作る動きがある。人口減少する中で、文化の担い手がいるのか、維持はどうしているかということは地域にとって大切な問題である。それにも関わらず、このアンケートではこうした課題が把握できない。課題の把握ができないので、行政的な手立てをしにくいのではないかと思う。この点についてはどのように考えているのか聞いておきたい。

○事務局

地域文化に関しては、佐賀市内の指定無形民俗文化財保存会の代表に年1回お集まりいただき、意見交換をして現状を把握しているところ。また、現状把握は別に調査する方針を立てているため、このアンケートには盛り込まなかった。

○委員

これまでも伝統芸能や無形民俗文化財の後継者不足ということが問題になっていた。「子どもが地域のお祭りや行事に参加したか」という設問があるが、計画中に何か具体性を盛り込むとすれば、子どもの関心の持ち方を知りたい。例えば、地域のお祭りや行事の中で、実際に何かの役割を果たした人もいれば、そのお祭りを見に行くという参加の仕方もある。この辺を知りたい。

○事務局

無形民俗文化財では、はじめから子どもの担い手は役が決まっている行事もあれば、今までは青年が担ってきた役割を段々と子どもが担うようになったというような行事もある。このため、子どもの参加状況について状況把握をしたい。

○委員

伝統芸能もどの程度理解しているかわからない。100年200年続いた行事として理解しているのか、それともこの頃まちおこしで始めたお祭りというように理解しているのか。その区別が難しいのではな

いか。

○委員

区別がつかないのは仕方がない。例えば、夏祭りの子ども神輿等の中にはここ 10 年といった新しい祭りもあると思うが、やはり、子どもたちは伝統芸能と最近始められた行事の判断はつかないと思う。地域の祭りに参加したかどうかで丸をつけると思うが、それはそれでいいと思う。

○委員

子どもたちの中では1番身近なものは子ども会だと思うので、それを反映してしまうのではないかと思う。

○委員

子どもアンケートは前回と同じ学校を対象としているのか。

○事務局

違う学校である。

○委員

先に意見がでたように、子どもの関心の持ち方等まで知りたいのであれば、違う学校でなく同じ学校に調査しないといけないし、別に違うアンケートを実施しないといけない。今回のアンケートの設問を変えてしまうと、本当にこの調査で知りたいことがわからなくなってくる。

○事務局

様々なアンケート調査があるが、やはり毎年対象を変えて実施している。

○委員

一般アンケートでは、69 歳までとしているが 70 歳以上は調査しなくてよいか。

○委員

人口構成の中でどの層に焦点を当て文化振興していくか。将来や経済を担う層の文化振興もあるし、高齢者に対する文化振興もある。

○委員

高齢者は人口構成割合で多くを占めるので、将来的には項目に 70 代以上も入れないと難しいと思う。

～終了～